

韓国語のオノマトペ名詞について

李 殷娥 (イ・ウナ)

About an onomatopoeia noun of the Korean

Eunah LEE

Abstract : I discussed it about an onomatopoeia noun of the Korean by this paper. The use frequency of the onomatopoeia noun of the Korean is low, but the possible forms are various. When onomatopoeia is used as a noun in form as is in an onomatopoeia noun, there are a derivation noun made by abundant suffix and a compound noun including the onomatopoeia.

In the case of Korean onomatopoeia, there are extremely few examples which onomatopoeia does direct nominalization of. The derivation noun is made by various suffix. There are declinable word ornamentation type and substantives ornamentation type in a compound noun. There are few examples of the declinable word ornamentation type compound noun, but I am various, and there is the substantives ornamentation type compound noun in richness.

要旨：本稿では韓国語のオノマトペ名詞について論じた。韓国語のオノマトペ名詞の使用頻度は低いが可能な形式は多様である。オノマトペ名詞にはオノマトペがそのままの形で名詞として用いられるものと、豊富な接尾辞によって造られる派生名詞、そしてオノマトペを含む複合名詞がある。

韓国語オノマトペの場合、オノマトペが直接名詞化する例は極めて少ない。派生名詞は様々な接尾辞によって造られる。複合名詞には用言修飾型と体言修飾型がある。用言修飾型複合名詞の例は少ないが、体言修飾型複合名詞は多様であり豊富に存在する。

1. はじめに

韓国語オノマトペの用法には副詞的用法、用言的用法（動詞・形容詞）、名詞的用法の3つの品詞別用法がある。最も基本的な用法は副詞として用いられる場合で、オノマトペは単一形や反復形をそのままの形で、あるいは副詞接尾辞などと結合して副詞としての機能を果たす。またオノマトペが用言（動詞、形容詞）として用いられる場合は、オノマトペの語幹あるいは語基に適切な用言形成語尾を付けて造ることができる。

一方、オノマトペの名詞的用法は副詞的用法や用言的用法に比べて使用頻度は高くないが、非常に多様なオノマトペ名詞が造られている。韓国語のオノマトペ名詞にはオノマトペが直接名詞化される場合とオノマトペを名詞化する接尾辞によって派生する場合、そしてオノマトペと動詞の名詞形あるいは名詞が結合して複合名詞を形成する場合とがある。

韓国語オノマトペにおいてオノマトペがそのままの形で名詞として用いられる場合は、幼児語などの非常に限られたものしかなくその数も極めて少ない。鶏を指すのに「ㄱㄱ」(コッコ)というが、鳴き声の擬声語を直接名詞化したものである。韓国でも大流行したポケベルは「ㄱㄱ」(コッコ)という。電子音を表わすオノマトペが商標名になり、やがて一般語化したものである。幼児語に類などに軽くチュッとするキスのことを「ㄱㄱ」(コッコ)というが、

これもオノマトベ名詞であると考えられる。ただし、「ㄹㄹ」が副詞的に使われることはない。「얼룩」(まだら)は「얼룩얼룩」(まだらに)という反復表現があるためオノマトベに数えられるが、オノマトベが一般語の「얼룩」から派生した可能性もある。また「왈가닥」(おてんば)もオノマトベ「왈가닥왈가닥」(がちがち)から派生したオノマトベ名詞であると考えられる。

韓国語ではオノマトベがそのままの形で名詞化する例は多くないが、オノマトベを名詞化する接尾辞は多様かつ豊富に存在する。またオノマトベを含む複合名詞は用言修飾型と体言修飾型があり、韓国語オノマトベには用言修飾型複合名詞はそれほど多くないが体言修飾型複合名詞は非常に生産性が高い。

- (1) 출랑이 경래가 창문에서 뛰어내리며 소리쳤습니다. (あわて者キョンレが窓から飛び降りながら叫びました。) 『創作童話』
- (2) 찰각찰각하는 깜박이 소리가 엔진 소리에 섞여 들려오기 시작했다. (がちがちという自動車の点滅灯の音がエンジン音とともに聞こえて来た。) 『手紙』
- (3) 신랑은 뭐가 그렇게 좋은지 너털웃음을 웃으면서 엄마를 추켜세웠다. (新郎は何がそんなに嬉しいのか豪傑笑いをしながらお母さんをおだてた。) 『彼の家』
- (4) 아이들은 추워서 종종걸음을 치며 집으로 돌아갔다. (子供たちは寒いので急ぎ足で歩いて家に帰った。) 『初等国語辞典』
- (5) 살랑바람에 날려가던 민들레 꽃씨는 자기가 떨어지는 아래를 내려다보며 당황한 목소리로 소리쳤다. (そよ風に飛ばされていた、タンポポの花の種は自分が落ちていく地面を見ながらあわてて叫んだ。) 『創作童話』
- (6) 정식으로 허락된 건 아니지만 군복을 입을 수 있고 꼬부랑글씨로 된 신분증이 나오니까 요령만 좋으면 큰소리 쳐가면서 김문을 피할 수 있었다. (正式に許可がおりたわけではないが、軍服も着られるし、横文字で書かれた身分証明書も発給されるから要領よくやれば検問を避けられた。) 『彼の家』

(1) と (2) の例の「출랑이」(あわて者)、「깜박이」(自動車の点滅灯)の接尾辞「-이」は最も生産的なもので、それぞれ「人」、「もの」を表わしている。(3) と (4) は用言修飾型複合名詞の例である。(3) の「너털웃음」(豪傑笑い)は大声で笑うようすを表わす「너털너털」(げらげら)に動詞「웃다」(笑う)の名詞形「웃음」が付いたものである。(4) の「종종걸음」(急ぎ足)は小またに速く歩くようすを表わす「종종」(すたすた)に動詞「걷다」(歩く)の名詞形「걸음」が付いたものである。(5) および (6) の例の「살랑바람」(そよ風)、「꼬부랑글씨」(横文字)はオノマトベ「살랑살랑」(そよそよ)、「꼬부랑꼬부랑」(くねくね)の単一形「살랑」、「꼬부랑」にそれぞれ名詞「바람」(風)、「글씨」(文字)が付いた体言修飾型複合名詞である。

本稿では韓国語のオノマトベ名詞に焦点をあてて多くの用例を示しながら実証的に考察していくことにする。

2. 名詞

2.1 派生名詞

韓国語のオノマトベ派生名詞は、多様かつ豊富な名詞派生接尾辞によって造られる。名詞派生接尾辞には「-이, -질, -증, -병, -결, -꾼, -쟁이, -배기, -뱅이, -보, -쇠, -기」などがあるが、最も生産的な接尾辞は「-이」である。

派生名詞形を造る場合、팽이(こま)のような例外はあるけれども、通常1音節オノマトベはその反復形に接尾辞が結合する。また2音節以上の反復形オノマトベはその単一形に名詞派生接尾辞が結合する。

オノマトベを名詞化する最も生産的な接尾辞である「-이」は、(1a)の例のように「人」、(1b)の例のように「動物」、(1c)の例のように「もの」の性質あるいは特徴を表わす。(1a)の例のように人の性質あるいは特徴を表わす場合、体の不自由な人や行為、性格、外見をさげすんで表現する際の別名として用いられる。このような名詞形は軽蔑的否定的な意味が含まれていると考えられる。(1b)は動物や昆虫の鳴き声を表わしたオノ

푸석이 (体質や性質の脆い人、弱虫、いくじなし) < 푸석푸석 (ばさばさ、ぼろぼろ)

헐렁이 (軽率な人、おっちょこちょい) < 헐렁거리다 (軽々しくふるまう)

홀쭉이 (やせこけた人) < 홀쭉하다 (げっそりとやせている)

b) 動物

맹꽁이 (ジムグリガエル) < 맹꽁맹꽁 (ジムグリガエルの鳴き声)

멍멍이 (犬、わんわん) < 멍멍 (わんわん)

부엉이 (コノハズク) < 부엉부엉 (フクロウの鳴き声、ホーホー)

어룡이 (一樣にちらばった斑点のある獣) < 어룡더룡 (色の異なる点や線がいっぱい入り乱れているさま)

얼룩이 (まだら模様の動物) < 얼룩얼룩 ((整然と)まだらになっているようす)

얼렁이 (まだら模様の動物) < 얼렁얼렁 (まだらになっているようす)

베짱이 (ウマオイムシ) < 베짱베짱 (ウマオイムシの鳴き声)

더듬이 (触角) < 더듬더듬 (手探りで)

c) もの

고부랑이 (曲がったもの) < 고부랑고부랑 (くねくね)

구부렁이 (曲がったもの) < 구부렁구부렁 (曲がりくねったようす)

깜박이 (自動車の点滅灯) < 깜박깜박 (ちらちら)

꼬부랑이 (曲がったもの) < 꼬부랑꼬부랑 (くねくね)

꾸부렁이 (曲がったもの) < 꾸부렁꾸부렁 (くねくね)

꿩꿩이 (もくろみ) < 꿩꿩 (呻く声：うんうん)

끈끈이 (鳥もち、はえとり紙) < 끈끈하다 (べとべととする)

냠냠이 ([幼児語]食べ物、おやつ) < 냠냠 ([幼児語]舌鼓を打つ音)

동강이 (切れ端、かけら) < 동강동강 (長いものがいくつにも折れるようす、きれぎれ)

딱딱이 (拍子木) < 딱딱하다 (こちこちである)

딸딸이 ((俗)三輪車) < 딸딸 (ごろごろ)

땡땡이 (でんでん太鼓) < 땡땡 (かんかん、ちんちん)

알룩이 (まだら模様、斑点、ぶち) < 알룩알룩 (まだらに)

물컹이 (ぐにゃぐにゃしたもの) < 물컹물컹 (ぐにゃぐにゃ)

얼룩이 (斑点) < 얼룩얼룩 (まだらに)

얼렁이 (まだらな模様の点、まだら模様のもの) < 얼렁얼렁 (まだらに)

오뚝이 (起きあがりこぼし) < 오뚝오뚝 (によきによき)

짹짹이 (ひそかな計画) < 짹짹짹짹 (乳飲み子に両手を打たせるかけ声)

쭈그렁이 (しわくちャのもの) < 쭈글쭈글 (しわくちャ)

뽕이 (こま) < 뽕 (くるっと、くるくる)

次の(2)の例のように「-리」や「-기」そして「-미」で終わるものがいくつかある。「-리」や「-기」そして「-미」は独立の接尾辞ではなく、それぞれ、「ㄹ」/l/と「ㄱ」/k/そして「ㄹ」/m/で終わるオノマトベに接尾辞「-이」を付けたものが綴りの変化を起こしたものである。

(2) a)

개구리 (蛙) < 개굴개굴 (ゲロゲロ)

피꼬리 (우그이스) < 피꼰 (우그이스の鳴き声)

딱따구리 (킷츙키) < 딱딱 (かちかち、こつこつ)

떠버리 (おしゃべり、ほら吹き) < 떠버리다 (大げさに言う、ほらを吹く)

종다리 (ヒバリ) < 종달 (ぶつぶつ、くどくど)

살사리 (お調子者、ごますり屋) < 살살 (こっそり色目を使ったり顔色をうかがったりするようす)
 주저리 ((垂れ下がっている) 房) < 주절주절 (だらりだらり)
 째짜리 (あちこちせわしくうろつき回る人) < 째째 (せかせか)
 탈다리 (一文無し) < 탈탈 (ばたばた、ぱんぱん)

b)

기러기 (ガン) < 기럭기럭 (ガンの鳴き声)
 얼룩기 (斑点、またはまだらな模様の動物) < 얼룩 (まだら、斑点)
 누더기 (継ぎはぎの衣服) < 누덕누덕 (継ぎはぎだらけのようす)
 따오기 (トキ) < 따옴따옴 (トキの鳴き声)
 뜬부기 (クイナ) < 뜬북뜬북 (クイナの鳴き声)
 바스라기 (かけら) < 바스락바스락 (かさかさ、ごそごそ)
 부스러기 (切れ端、残りかす) < 부스럭부스럭 (がさがさ、ごそごそ)
 뽀꾸기 (カッコウ) < 뽀꾸뽀꾸 (カッコウカッコウ)

각두기 (ダイコンの角切りのキムチ) < 각둑각둑 (乱切りにするようす)

진드기 (ダニ) < 진득진득 (ねばねば)

c)

매미 (セミ) < 맴맴 (ミンミン)
 쓰르라미 (ヒグラシ) < 쓰르람쓰르람 (ヒグラシの鳴き声：かなかな)

(3) - 질

「- 질」は行為名詞を派生する生産性の高い接尾辞である。「- 질」は『朝鮮語辞典』には次のように載っている。①繰り返す動作や行動を表わす。②よくない動作・行為を表わす。③一定の職業や役目をやや軽蔑を込めていう。したがって、オノマトベに付いてその動作や行動を卑しく否定的に評価し、また反復的あるいは持続的に行われることを意味する。

더듬질 (手探り) < 더듬더듬 (手探りで)
 도리질 (乳児が頭を左右に振って見せるかわいらしいしぐさ) < 도리도리도리 (赤ん坊の頭を振らせるあやし言葉)
 뒤적질 (ひっかき回すこと) < 뒤적뒤적 (ごそごそ、がさがさ)
 딸꾹질 (しゃっくり) < 딸꾹딸꾹 (ひっくひっく)
 버둥질 (足をバタバタさせる行為) < 버둥버둥 (手足をばたつかせるようす、ばたばた)
 부라질 (赤ん坊の両脇を抱えて左右に振りながらあやすこと) < 부라부라 (赤ん坊の両脇を抱えて揺するときにあやす言葉)
 속닥질 (ひそひそ話をする行為) < 속닥속닥 (ひそひそ)
 씨부렁질 (無駄口をたたく行為) < 씨부렁씨부렁 (ぺちゃぺちゃ)
 얼렁질 (へつらう、こびる行為) < 얼렁얼렁 (へつらったり、おもねったりするようす)
 죄암질 (赤ん坊のにぎにぎ) < 죄암죄암 (赤ん坊が手を握ったり広げたりするようす、にぎにぎ)
 해작질 (食べ物をつつつく行為) < 해작해작 (ぐちゃぐちゃ)

(4) および (5) はオノマトベに漢字語である 「- 증 【- 症】」「- 병 【- 病】」 という接尾辞が付いて病名を表わしている。

(4) - 증

벌떡증 (どきどきする状態) < 벌떡벌떡 ((胸が) どきどきする)

- 심심증 (ひどく退屈な気分) < 심심하다 (退屈だ)
 안달증 (やきもきする状態) < 안달복달하다 (やきもきする)
 어질증 (目まい) < 어질어질 (くらくら)
 울렁증 (吐き気) < 울렁울렁 (むかむか)
 툭툭증 (鬱積した怒りを発散できずいら立つこと) < 툭툭 (ぶくぶく)
 허겁증 (体が虚弱でおどおどする症状) < 허겁지겁 (あたふた)
 헛헛증 (空腹感) < 헛헛하다 (空腹感を覚える)

(5) - 병

- 시들병 (筋萎縮症) < 시들시들 (ややしおれて柔らかいようす)
 어질병 (目まいの病気) < 어질어질 (くらくら、ふらふら)
 조춤병 (ためらいがちな性格) < 조춤조춤 (ためらうようす、もじもじ)
 주춤병 (ぐずぐずしてなかなか決断しない癖) < 주춤주춤 (ぐずぐず)

(6) - 결

接尾辞「-결」は「ざっと過ぎ去ってしまう短い瞬間」という意味を表わしている。数は多くないが、オノマトベに付いて「とっさに」、「どさくさまぎれに」という意味になる。

- 엉겁결 (とっさに) < 엉거주춤 (するのかしないのかはっきりしないで)
 얼떨결 (どさくさまぎれに) < 얼떨떨하다 (頭がふらつく、めんくらう)

(7) - 꾀

「-꾀」は名詞に付いて「ある事柄を専門的または習慣的に行う人」を表わす接尾辞である。オノマトベに付いて常習的にある行為や動作を行う人を表わす。

- 건달꾀 (よた者、ぐうたら) < 건들건들 (ぶらぶら)
 덤병꾀 (慌てん坊) < 덤병덤병 (せかせか、あたふた)
 덜렁꾀 (慌てん坊、おっちょこちょい) < 덜렁덜렁 (落ち着かずそそっかしいようす、ふらふら)

(8) - 장이/쟁이

「-장이/쟁이」は漢字語「장【匠】」に「-이」が結合して形成された接尾辞である。元来「ある分野の技術を持った人」の意味であるが、その人をさげすんで言う時に用いられるようになった。オノマトベに結び付いた場合は人間の性質や行為、習慣そして職業を低める意味になる。

- 콜록쟁이 (長く咳をする病気にかかっている人) < 콜록콜록 (ごほんごほん)
 꾀꾀쟁이 (こせこせした人) < 꾀꾀하다 (こせこせしている)
 만만쟁이 (人に軽んじられる人) < 만만하다 (くみしやすい、御しやすい)
 또드락장이 (彫金師) < 또드락또드락 (こつこつ、かちかち)

(9) - 배기

「-배기」は「ある特性を持つ対象」であることを表わしており、マイナスの意味が含まれている。

- 얇둑배기 (あばた面の人) < 얇둑얇둑 (顔に細かく深いあばたがまばらにあるようす、ぼつぼつ)
 얇죽배기 (あばた面の人) < 얇죽얇죽 (大小のあばたが散らばっているようす、ぼつぼつ)
 얼룩배기 (まだら模様の動物や物) < 얼룩얼룩 (まだらに)

(10) - 뻥이

「-뻥이」は「軽蔑的にある習慣・性質などの持ち主」の意味を表わす接尾辞である。接尾辞の意味で示しているようにやや人を見下す意味が含まれている。

안달뱅이 (すぐに気をもみいらいらする人) < 안달복달하다 (ひどく気をもむ)
 알금뱅이 (あばた面) < 알금알금 (小さいあばたがまばらにあるようす)
 너털뱅이 (大声で笑う人) < 너털너털 (大声で笑うようす、げらげら)

(11) -보

接尾辞「-보」は「それを非常に好む人、あるいはその程度がはなはだしい人」を表わす。

똥똥보 (でぶ、太っちょ) < 똥똥하다 (太っている)
 똥보 (むっつりした人、無愛想な人) < 똥하다 (口数が少なく無愛想だ)
 똥팔보 (背か低くて太った人、ずんぐりむっぐり) < 똥팔막하다 (ずんぐりしている)

(12) -쇠

韓国語には以前から下男を称する言葉としてよく使われていたのが「마당쇠」や「돌쇠」などの表現である。「-쇠」は雇い主つまり「主人」に対して雇われている身分の低い者「下人」という意味の「소인」(小人)の縮約語である。また「-쇠」は下人が自分を低めていう場合にも使われたことばである。以下の例のように「-쇠」がオノマトベに付くと人間の性質や行動を見くびた意味になる。

달랑쇠 (おっちょこちょい) < 달랑달랑 (そそっかしく)
 덜렁쇠 (そそっかしい人、あわてんぼう) < 덜렁덜렁 (そそっかしく)
 알랑쇠 (おべっかを使う人) < 알랑알랑 (こびへつらうようす)
 얼렁쇠 (おもねる人、ごますり) < 얼렁얼렁 (へつらったり、おもねったりするようす)

(13) -기

「-기【氣】」は人間の態度や性質そして印象などの意味を表わす。

끈기 (粘り氣) < 끈끈하다 (べとべととする、ねばねばする)

以上のように、オノマトベに付く接尾辞は大方あまり好ましくない人間の性質、行為、特性、態度などを表わすものである。オノマトベにこれらの接尾辞が付くと反復的に持続的に行われる事柄をさげすんだ表現になる。

2.2 複合名詞

韓国語におけるオノマトベを含む複合名詞は元になる表現形式により用言修飾型と体言修飾型に分類できる。用言修飾型は単純にオノマトベと動詞の名詞形が、体言修飾型はオノマトベと名詞が結び付いたものである。オノマトベ複合名詞には新造語が多く、頻度としては伝統童話よりも現代小説や創作童話などによく表れる。

2.2.1 用言修飾型複合名詞

韓国語オノマトベの用言修飾型複合名詞は、反復形オノマトベの場合は単一形に、1音節反復形オノマトベの場合は反復形に動詞の名詞形を結び付けて造る。韓国語オノマトベにおいて用言修飾型複合名詞を形成する動詞の名詞形は動詞の「걸다」(歩く)と「웃다」(笑う)の名詞形「걸음」と「웃음」を含むものがいくつかある程度である。

(14) a)

가탈걸음 (じゃじゃ馬の荒っばい歩きぶり) < 가탈가탈 (馬が荒っばく歩いて乗りにくいさま)
 똥똥걸음 (小走り、早足) < 똥똥 (しきりに軽く踏み鳴らすようす、とんとん)
 비척걸음 (千鳥足) < 비척비척 (よろよろ、よたよた)
 비틀걸음 (よろよろした足どり、千鳥足) < 비틀비틀 (ひよろひよろ、よろよろ)
 아장걸음 (よちよち歩き) < 아장아장 (よちよち)
 좃좃걸음 (急ぎ足、小走り、早足) < 좃좃 (すたすた)
 좃좃걸음 (急ぎ足) < 좃좃거리다 (あわただしいようす)

통통걸음 (とんとんと速く歩く足取り) < 통통 (とんとん)

통통걸음 (どすんどすと歩く足取り) < 통통 (どんどん)

b)

깔깔웃음 (高笑い、大笑い) < 깔깔 (からから)

결결웃음 (高笑い、豪傑笑い) < 결결 (からから)

너털웃음 (豪傑笑い、高笑い) < 너털너털 (げらげら)

2.2.2 体言修飾型複合名詞

一方、韓国語オノマトペの体言修飾型複合名詞は非常に多様かつ豊富に存在する。体言修飾型オノマトペ複合名詞は、「オノマトペを含む体言修飾節+名詞」の構造が簡潔化されて生じたものである。

(15)

건들바람 (初秋の涼風) < 건들건들 (そよそよ) + 바람 (風)

남실바람 (そよ風) < 남실남실 (ゆらゆら) + 바람 (風)

산들바람 (そよ風) < 산들산들 (そよそよ) + 바람

선들바람 (そよ風) < 선들선들 (そよそよ) + 바람

소소리바람 (肌にしみるような早春の冷たい風) < 소소리 (空高くそびえ立つようす) + 바람

술술바람 (そよ風) < 술술 (そよそよ) + 바람

솔바람 (そよ風) < 솔솔 (そよそよ) + 바람

보슬비 (小雨、細雨) < 보슬보슬 (しとしと) + 비 (雨)

부슬비 (小雨、こぬか雨) < 부슬부슬 (しとしと) + 비

몽계구름 (もくもくとわき出る雲) < 몽계몽계 (もくもく) + 구름 (雲)

건들장마 (初秋の降ったり止んだりする気まぐれな長雨) < 건들건들 (そよそよ) + 장마 (梅雨)

살얼음 (薄氷) < 살살 ((雪・砂糖などが) 知らないうちによく溶けるようす: さらりと、徐々に) + 얼음 (氷)

더퓌개 (むく犬) < 더퓌더퓌 (ふわふわ) + 개 (犬)

멍멍개 (犬、わんわん) < 멍멍 (わんわん) + 개

복슬개 (むく毛の大きな犬) < 복슬복슬 (動物が太って毛が多いようす) + 개

복슬강아지 (丸々としてふくよかな子犬) < 복슬복슬 (動物が太って毛が多いようす) + 강아지 (子犬)

꿀꿀돼지 (豚) < 꿀꿀 (ブタの鳴き声) + 돼지 (豚)

꿀돼지 (豚) < 꿀꿀 (ブタの鳴き声) + 돼지

얼룩말 (シマウマ) < 얼룩얼룩 (まだらに) + 말 (馬)

덜렁말 (暴れ馬、荒馬) < 덜렁덜렁 (そそっかしい) + 말

꼬꼬닭 (鶏) < 꼬꼬 (鶏の鳴き声) + 닭 (鶏)

따옥새 (トキ) < 따옥따옥 (トキの鳴き声) + 새 (鳥)

뜸북새 (クイナ) < 뜸북뜸북 (クイナの鳴き声) + 새

삐꾸새 (カッコウ) < 삐꾸삐꾸 (カッコウの鳴き声) + 새

소쩍새 (코노ハズク) < 소쩍소쩍 (코노ハズクの鳴き声) + 새

종달새 (ヒバリ) < 종달종달 (ぶつぶつ、くどくど) + 새

쓰름매미 (ツクツクボウシ) < 쓰름쓰름 (ツクツクボウシの鳴き声) + 매미 (セミ)

쌍쌍매미 (니이이제미) < 쌍쌍 (니이이제미의鳴き声) + 매미

납작감 (平べったい柿) < 납작하다 (平べったい) + 감 (柿)

납작보리 (平麦、押し麦) < 납작하다+보리 (麦)

납작호박 (平べったいかぼちゃ) < 납작하다+호박 (かぼちゃ)
 종종모 (ぎっしり植えた稲の苗) < 종종 (ぎっしり) +모 (苗)
 말랑무우 (切り干し大根) < 말랑말랑하다 (ふわふわしている) +무우 (大根)
 동동주 (濾過しないで飯粒を浮かしたままの酒) < 동동 (ふわふわ、ぶかぶか) +주 (酒)

고부랑길 (曲がりくねった道) < 고불고불 (くねくね) +길 (道)
 구부렁길 (曲がりくねった道) < 구불구불 (くねくね) +길
 꼬부랑길 (曲がりくねった道) < 꼬불꼬불 (くねくね) +길
 꾸부렁길 (曲がりくねった道) < 꾸불꾸불 (くねくね) +길
 서벽돌 (もろい石) < 서벽서벽 (さくさく) +돌 (石)
 흔들바위 (ゆらぎ石) < 흔들흔들 (ゆらゆら) +바위 (岩、石)

까까중 (くりくり頭、坊主頭) < 깎다 (刈る) +중 (僧)
 까까머리 (坊主頭、丸坊主) < 깎다 (刈る) +머리 (頭、髪)
 고수머리 (縮れ毛) < 곱슬곱슬하다 (縮れている) +머리
 곱슬머리 (縮れ毛) < 곱슬곱슬하다 (縮れている) +머리
 더펄머리 (ふさふさした髪) < 더펄더펄 (ふわふわ) +머리
 더벅머리 (もじゃもじゃの髪) < 더북더북 (ぼうぼう) +머리
 종종머리 (女の子の髪型の一つ) < 종종 (ぎっしり) +머리
 납작코 (鼻ぺちやの人の鼻) < 납작하다 (平べったい) +코 (鼻)
 움푹눈 (窪目、金壺眼) < 움푹 (ひどくへこんでいるようす) +눈 (目)
 물렁뼈 (軟骨) < 물렁물렁 (ぶよぶよ) +뼈 (骨)
 오도독뼈 ((牛・豚の)軟骨) < 오도독오도독 (ほりほり、こりこり) +뼈
 꼬부랑할머니 (腰の曲がったおばあさん) < 꼬부랑꼬부랑 (くねくね) +할머니 (おばあさん)
 꼬부랑할아버지 (腰の曲がったおじいさん) < 꼬부랑꼬부랑+할아버지 (おじいさん)
 꼬부랑늙은이 (腰の曲がった老人) < 꼬부랑꼬부랑+늙은이 (年寄り)
 척척박사 (物知り博士) < 척척 (すらすら) +박사 (博士)

깜박불 (ぱちぱちする火花) < 깜박깜박 (ぱちぱち) +불 (火)
 꼬부랑글자 (下手な文字、[俗語]横文字) < 꼬부랑꼬부랑 (くねくね) +글자 (文字)
 꼬부랑말 ([俗語]外国語) < 꼬부랑꼬부랑+말 (言葉)
 끈끈물 (粘液) < 끈끈하다 (ねばねばする) +물 (水)
 깍소리 ((ほんの小さな)反論) < 깍깍 (鋭く張り上げる叫び声) +소리 (声)
 덜걱마루 (がたがたきしむ板の間) < 덜걱덜걱 (가타가타) +마루 (板の間)
 떨걱마루 (歩くたびにがたがたする安普請の板の間) < 떨걱떨걱 (가타가타) +마루
 딱성냥 ((固いところならどここすっても発火する)摩擦マッチ) < 딱 (かちっ) +성냥 (マッチ)
 똑딱단추 ((衣服の)スナップ、ホック) < 똑딱 (かちかち) +단추 (ボタン)
 똑딱선 (小型発動機船) < 똑딱 (ほんほん) +선 (船)
 몽땅연필 (短い鉛筆) < 몽땅하다 (ずばっと切られたように太くて短い) +연필 (鉛筆)
 깜짝쇼 (びっくりショー) < 깜짝 (びっくりするようす) +쇼 (ショー)
 반짝스타 (一発屋) < 반짝 (きらっと、ぴかっと) +스타 (スター)
 썩썩카 (高速車) < 썩썩 (びゅんびゅん) +카 (車)
 바스락장난 ((かさかさとして小さい音を出す程度の)軽いいたずら) < 바스락바스락 (かさかさ) +장난 (いたずら)
 보스락장난 (こそこそとするいたずら) < 보스락보스락 (こそこそ) +장난

- 오목렌즈(凹レンズ) < 오목(中がまるくくぼんでいるようす) + 렌즈(レンズ)
 볼록렌즈(凸レンズ) < 볼록(ふっくら) + 렌즈
 오목거울(凹面鏡) < 오목(中がまるくくぼんでいるようす) + 거울(鏡)
 볼록거울(凸面鏡) < 볼록(ふっくら) + 거울
 불똥성(にわかにならぶと起こる怒り) < 불똥(かっと) + 성(怒り)
 알랑수(巧みにだます手段) < 알랑알랑(しきりにこびへつらうさま) + 수(手)
 삐죽종(カッコウ時計) < 삐죽(カッコウ) + 종(鐘)
 뽀족구두(ハイヒール) < 뽀족하다(先が細くなって尖っているようす) + 구두(靴)
 퐁퐁배(ぼんぼん蒸気) < 퐁퐁(とんとん) + 배(船)
 흔들의자(揺り椅子) < 흔들흔들(ゆらゆら) + 의자(椅子)
 썩덕공론(何人かできそかにこそこそと交わす議論) < 썩덕(ひそひそ、こそこそ) + 공론(公論)

韓国語オノマトペの体言修飾型複合名詞の特徴として以下のことが考えられる。

- ① 오노마트페의体言修飾型複合名詞は、一般的にノマトペは後ろに来る名詞の性質・属性・種類などを表わす。
- ② 오노마트페의体言修飾型複合名詞は自然現象や風の名前、動植物の名前やもの名前などとして最も多く用いられる。반짝스타(一発屋), 깜짝쇼(びっくりショー), 썩썩카(高速車)などのようにオノマトペが外来語と結合することもある。オノマトペは造語力が高いため名詞との結合により体言修飾型複合名詞の生産性が非常に高くなる。
- ③ 通常、反復形オノマトペの場合は単一形に、1音節反復形オノマトペの場合は反復形に名詞が結合する。しかし、1音節反復形オノマトペの場合、反復形に名詞が付く場合と単一形に名詞が付く場合とがある。

- 꿀꿀돼지(豚) < 꿀꿀(ブタの鳴き声) + 돼지(豚)
 꿀돼지(豚) < 꿀꿀(ブタの鳴き声) + 돼지
 솔솔바람(そよ風) < 솔솔(そよそよ) + 바람(風)
 솔바람(そよ風) < 솔솔(そよそよ) + 바람

また、(16)の例のように複合名詞にさらに接尾辞「-이」を付けた(a)のような例、そして(b)のような接尾辞「-이」によって派生したオノマトペ名詞と一般名詞の複合名詞もある。

(16) a)

- 옴평눈이(目のくぼんだ人) < [옴평(ぺこん/ぼこんと) + 눈(目)] + 이
 툇눈이(出目金) < [툇(ぶくっと) + 눈(目)] + 이
 오목눈이(目のくぼんだ人) < [오목(中がまるくくぼんでいるようす) + 눈(目)] + 이
 딸깍발이(貧乏な学者) < [딸깍(下駄をはいて歩くときの音) + 발(足)] + 이
 절뚝발이(足の不自由な人) < [절뚝절뚝(足をひきずって歩くさま) + 발(足)] + 이
 절름발이(足の不自由な人) < [절름절름(ちょっと足をひきずって歩くさま: ひょこひょこ) + 발(足)] + 이

b)

- 눈깜작이(目をしきりにばちばちさせる人) < 눈(目) + [깜작(まばたくようす) + 이]
 코납작이(鼻ぺちゃ) < 코(鼻) + [납작하다(ぺちゃんこだ) + 이]
 코짱짱이(鼻づまりの人) < 코(鼻) + [짱짱(ぶつぶつ) + 이]
 배불똥이(太鼓腹の人) < 배(お腹) + [불똥(にわかにならぶようす) + 이]
 말더듬이(どもる人) < 말(言葉) + [더듬더듬(つかえつかえ) + 이]
 혀꼬부랑이(舌足らずの人) < 혀(舌) + [꼬부랑꼬부랑(くねくね) + 이]
 꿀꿀이죽(粥状の豚のえさ) < [꿀꿀(ブタの鳴き声) + 이] + 죽(かゆ)

땡땡이중 (鉦を鳴らして回る托鉢僧) < [땡땡 (かんかん) + 이] + 중 (僧)

끈끈이주걱 (モウセンゴケ) < [끈끈하다 (ねばねばする) + 이] + 주걱 (しゃもじ)

3. ま と め

本稿では韓国語のオノマトベ名詞について論じた。韓国語のオノマトベ名詞の使用頻度は低いが可能形式は多様である。韓国語のオノマトベ名詞には次のような特徴がある。韓国語オノマトベにおいてオノマトベがそのままの形で名詞として用いられる場合がある。しかし、オノマトベが直接名詞化する例は極めて少なく幼児語などごく限られたものしか存在しない。また、「-이, -질, -증, -병, -결, -꾼, -쟁이, -배기, -뽕이, -보, -쇠, -기」などの様々な名詞派生接尾辞によって派生名詞が造られる。この中で最も生産的な接尾辞は「-이」である。「-이」を含む派生名詞は「人」、「動物」、「もの」を表わし、それぞれの性質あるいは特徴を表現する。一般的にオノマトベ名詞派生接尾辞の意味はあまり好ましくない人間の性質、動作、特性、態度などを表わす場合が多い。このような接尾辞がオノマトベに付いて反復的に持続的に行われる動作や特性などをさげすんだものとして表現する傾向がある。そして韓国語オノマトベには動詞の名詞形あるいは名詞とオノマトベが結合して造られる複合名詞がある。複合名詞には用言修飾型と体言修飾型がある。用言修飾型オノマトベ複合名詞には、動詞の「걷다」(歩く)と「웃다」(笑う)の名詞形である「걸음」と「웃음」を含むものがいくつかある程度で、その数はそれほど多くない。一方、体言修飾型オノマトベ複合名詞は、「オノマトベを含む体言修飾節＋名詞」の構造が簡潔化されて生じたもので非常に生産性が高く豊富かつ多様に存在する。

参考文献

- 李殷娥 (2001) 『日本語と韓国語のオノマトベに関する対照研究』名古屋大学大学院国際開発研究科博士学位論文
 田守育啓 / ローレンス・スコウラップ (1999) 『オノマトペー形態と意味ー』くろしお出版
 田守育啓 (1993) 「日本語オノマトベの統語範疇」 寛寿雄・田守育啓編『オノマトピアー擬音・擬態語の楽園ー』勁草書房 pp.16-75
 野間秀樹 (1991) 「朝鮮語のオノマトペー擬声擬態語と派生・単語結合・シンタックス・テキストについてー [派生、合成語、使用頻度]」『学習院大学言語共同研究所紀要』14 pp. 75-88

韓国語文献

- 김창섭 (キム・チャンソプ) (1996) 『국어의 단어형성과 단어구조 연구 (国語の単語形成と単語構造の研究)』国語学会：ソウル
 朴東根 (パク・トンゲン) (1997) 『현대국어 흥내말의 연구 (現代韓国語のまねことばの研究)』(建国大学校国文科博士学位論文)
 宋喆儀 (1992) 『国語의 派生語形成研究』国語学会：ソウル
 이익섭 / 채완 (イ・イツソプ / チェ・ワン) (1999) 『국어문법론강의 (国語文法論講義)』学研社：ソウル
 채완 (チェ・ワン) (2003) 『한국어의 의성어와 의태어 (韓国語の擬声語と擬態語)』ソウル大学出版部：ソウル

参考資料

- 油谷幸利他編 (1993) 『朝鮮語辞典』小学館
 延世大学校言語情報開発研究院編 (1998) 『延世韓国語辞典』斗山東亜：ソウル
 ————— (2002) 『東亜延世初等国語辞典』斗山東亜：ソウル
 金星出版社編 (2001) 『初等国語辞典』金星出版社：ソウル

出典一覧

- 박완서 (パク・ワンソ) 著 (2004) 『그 남자네 집 (彼の家)』현대문학：ソウル
 권형술 (クォン・ヒョンスル) 著 (1997) 『편지 (手紙)』바다출판사：ソウル
 길지연 (キル・チヨン) 他著 (2002) 『제9회 우수 창작동화 20 (第9回優秀創作童話 20)』대교출판：ソウル
 최은섭 (チェ・ウンソップ) 他著 (1996) 『제3회 우수 창작동화 20 (第3回優秀創作童話 20)』대교출판：ソウル